

(西暦) 2018 年度 博士前期課程学位論文要旨

学位論文題名 (注: 学位論文題名が英語の場合は和訳をつけること)

総合周産期母子医療センターに勤務する助産師の仕事意欲とその要因

学位の種類: 修士 (看護学)

首都大学東京大学院

人間健康科学研究科 博士前期課程 人間健康科学専攻 看護科学域

学修番号 15894601

氏名: 秋山 奈緒子

(指導教員名: 安達 久美子教授)

注: 1 ページあたり 1,000 字程度 (英語の場合 300 ワード程度) で、本様式 1~2 ページ (A4 版) 程度とする。

目的: 総合周産期母子医療センターに働く助産師は、他の施設で働く助産師に比べて離職率が高いとされている。そこで、本研究では、離職との関連がある仕事意欲について、総合周産期母子医療センターに働く助産師を対象として調査を行い、助産師の仕事意欲とその要因を明らかにすることを目的とした。

方法: 首都圏、東海、近畿地方の総合周産期母子医療センターに勤務する助産師を対象とし、研究同意が得られた 12 施設に調査用紙を配付した。配布の内訳は、首都圏の総合周産期母子医療センター 162 部 (6 施設)、東海・近畿地方の総合周産期母子医療センター 196 部 (6 施設) の計 358 部であった。

自記式アンケート用紙を作成し、対象者の背景、勤務状況、就業状況、助産業務、健康管理などについて調査を行った。仕事意欲については、看護師の仕事意欲測定尺度を用いた。仕事意欲を従属変数とし、対象者の背景、勤務状況等に関する質問項目 31 項目を独立変数として、Mann-Whitney の U 検定、kruskalWallis 検定、Spearman の順位相関係数を用いて分析を行った。

結果: アンケート用紙の回収は、247 部 (回収率 68%) であった。そのうちの有効回答 242 部 (有効回答率 97%) を分析対象とした。対象者の背景として、年齢は 20~29 歳は 108 人 (44.6%) と最も多く、助産師経験年数は、10 年以下が 156 人 (64.5%)、勤続年数は、1~5 年は 115 人 (47.5%) だった。

意欲尺度の総得点は、最小 15 点、最大 75 点であり、平均 (\pm SD) は 55.1 (\pm 9.8) 点であった。就業環境と意欲得点では、「現在の仕事は楽しい」「今の職場の人間関係は良い」について、「思う」と回答した者は 7~8 割で、「思わない」と回答した者より意欲得点が高かった。助産業務については、「助産師が主体的に実施出来る」、「自分の持っている助産師としての能力を発揮出来る」について、「思う」と回答した者は 6~7 割で、「思わない」と回答した者より意欲得点が高かった。

考察: これまで、総合周産期母子医療センターに勤務する助産師の離職率が他施設より高いことが示されていたため、仕事意欲得点が低いことが予測されたが、先行研究の単科・混合病棟で働く助産師、中堅看護師の仕事意欲得点と大きな差はみられなかった。

総合周産期母子医療センターはハイリスク妊産婦、褥婦を対象としており、医療的介入も多い状況である中、本来の助産業務が実施され難いことが考えられたが、多くの助産師が仕事を楽しい、主体的に実施できていると回答しており、仕事意欲を高める要因となっていた。

総合周産期母子医療センターであっても、助産師として、助産業務を主体的に取り組み、専門性を生かすことで自信に繋がり、充実感や成長感を得ることで仕事意欲向上になると考える。